特集／茨城県議会 正・副議長 就任インタビュー

広告　企画・制作　建設未来通信社広告部

未来見据えた県土づくり推進

第117代議長
西野（にしの）　一（はじめ）　氏

プロフィール　1953年7月4日生まれ。71歳。当選5回。いばらき自民党。農林水産委員会委員長、議会運営委員会委員長、副議長などを歴任。趣味は読書。弓道は四段の腕前。座右の銘は「凡事徹底、一燈照隅、有意注意」。

―議長就任の抱負を

人口減少やデジタル化など、大きな変化の時代の中で、未来を見据えた県土づくりを力強く推進していかなければならない。県議会では議員提案による28の政策条例を制定するなど、これまで積極的な政策立案を行ってきた。

議会は二元代表制の一翼を担う存在。執行部と互いの役割を尊重しつつ、緊張感のある関係を保ちながら、地方議会に与えられた意思決定機能や監視機能を最大限に発揮するとともに、県民の皆さまの負託に的確に応え、福祉の向上や県勢の発展に取り組んでいく。

議長として今まで以上に県民一人一人の声を真摯に受け止め、地域の声を県政に反映し、県全体の発展につなげられるよう、公正、円滑な議会運営に努め、『一燈照隅』を胸に、明るい社会を築いていきたい。

―特に注力したいことは

まずは物価高騰対策。物価上昇を上回る賃金上昇を実現し、消費拡大につなげ、成長と分配の好循環が確実に回りだすようにする必要がある。戦略的な企業誘致や国内外からの旺盛な観光需要の獲得など、県民所得のさらなる向上や物価高対策につながる政策を知事とともに推し進めていきたい。

保健医療・福祉政策としては、昨年、県議会では議員提案の『茨城県健康長寿日本一を目指す条例』を制定した。条例の趣旨である「ウェルビーイングで生き生きと暮らし活躍できる地域社会の実現と健康寿命の延伸」に向けた取組を継続する。

激甚化・頻発化する自然災害対策も大切だ。昨年の能登半島地震や台風第10号、本県でも東日本大震災や令和元年東日本台風など、自然災害は甚大な被害をもたらす。県民の皆さまの生命と財産を守るため、国の防災・減災、国土強靭化のための5か年加速化対策を最大限に活用した道路・河川整備などに取り組み、災害に強い県土づくりを着実に進めていかなければならない。

県内では東関道の開通や圏央道4車線化が控えており、人流・物流の効率化や地域の成長基盤の強化が図られ、さらに活力が高まっていくことが期待されている。私の地元の常陸太田市では真弓トンネルの整備が進んでいるが、完成すれば渋滞緩和や地域間交流の活発化のみならず、日立総合病院へのアクセスが向上するなどのメリットもある。こうしたチャンスを県勢発展につなげていくためにも、一刻も早い開通を待ち望んでいる。

―建設業界へメッセージを

インフラ整備や強靭な県土づくりには建設業界の皆さまのお力が必要不可欠。災害時には自衛隊や消防、警察と肩を並べるエッセンシャルワーカーでもある。また、昨年末に発生した鳥インフルエンザでは県建設業協会のご協力をいただき、速やかに処分を終えることができた。重ねて感謝申し上げる。

一方で、業界では就業者数の減少や従業員の高齢化が進み、担い手の確保・育成が喫緊の課題となっている。建設業が働き方改革を推し進めるためには、適正な予定価格の設定や施工時期の平準化、積極的なICT活用などが重要になる。県では労務単価や資材単価に実態の価格変動を速やかに反映させるとともに、適正な価格で受注できる環境の整備、猛暑に伴う作業不能日数の考慮などにも努めている。もちろん、こうした取組は市町村や民間でも実施していく必要がある。

議会として、引き続き建設業が持続可能な産業となるよう対策を講じていく。建設業界の皆さまも働き方改革を推進し、担い手の確保に努めていただきたい。そして、県土の均衡ある発展のため、今後とも建設業界の皆さまのお力添えをお願いしたい。

子どもを産み育てやすい環境に

第118代副議長
戸井田（といた）和之（かずゆき）　氏

プロフィール　1964年10月26日生まれ。60歳。当選5回。いばらき自民党。保健福祉医療委員会委員長、総務企画委員会委員長などを歴任。趣味は音楽鑑賞（ヒップホップ、演歌）。座右の銘は自分の名前にもある「和」。

―副議長就任の抱負を

人口減少が進む中、地域の活力を高めていくには子どもを産みやすい環境づくりや交流人口の拡大、定住促進を図っていく必要がある。県民誰もが安心して安全に暮らせる社会を実現するため、医療や福祉、治安、防災など、命と財産を守る生活基盤を築いていくことも大切。また、近年は自然災害が頻発化・激甚化しており、道路の補修や河川の改修などにも全力で取り組んでいかなければならない。

こうした課題が山積しており、副議長の職責の重大さを痛感している。西野議長を補佐しながら、県政発展に向けて、県民の皆さまの声をしっかりと県政に反映できるよう、円滑な議会運営に努めていく。

―特に注力したいことは

少子高齢化対策はあらゆる社会経済領域に関わる最重要課題。「日本一子どもを産み育てやすい県」の実現に向け、結婚・出産・子育ての希望が叶う社会制度を整備していく。子育て世代の支援のためには、安定した雇用の創出、仕事と子育てが両立できる労働環境の整備、女性活躍や働き方改革の推進なども不可欠だ。

本県はかつて常陸国と呼ばれていたように、豊かな自然に恵まれており、それ自体が地域資源とも言える。

行政・民間・地域が一体となって地域資源の魅力を磨き上げ、観光振興など楽しく稼げる取組につなげていくことが、持続可能な地域振興にとっても重要だろう。

私の地元、石岡市では300年続くお祭りがある。毎年、県内外から多くの人が集まるが、県内外の観光客にPRする取組が観光振興や地域振興につながっている。

地域の祭りは、将来を担う子どもたちのため、という側面を持つ。世代間の交流や対話が生まれ、支え合いながら楽しく暮らしていくための大きな力となっている。

観光振興には広域交通ネットワークの充実が欠かせない。圏央道4車線化や東関道などの整備が進んでいるが、県土の均衡ある発展のためには、（仮称）茨城縦貫幹線道路整備構想や（仮称）鹿行南部道路計画の早期具体化など、県内各地域間を結ぶ道路網の整備により、交流人口の拡大や地域産業の活性化を促進していく必要がある。

―建設業界へメッセージを

建設業界の皆さまには日頃の県土整備はもとより、災害時にはいち早く現場の最前線で復旧工事を行うなど、地域の守り手として県民生活を支える大きな役割を担い、なくてはならない存在として活躍していただいている。

建設業は作業の特性上、他産業より効率や実労働時間などに課題があると言われていることから、事務手続きなどの工程において業務の効率化を推進し、時間外労働の縮減や生産性向上に取り組んでいただきたい。県でも提出書類の簡素化や電子契約などを引き続き推進するとともに、新たに、オンライン電子納品など、業界を支援するための取組を推進している。皆さまも業務改善に取り組み、担い手確保につなげていただきたい。

また、時代の流れで公共事業費は減っているが、事業量をしっかりと確保し、労務単価を着実に上げることは非常に重要だ。センターラインもないような道路は危険だし、旧3Kのままでは業界に入ろうという人も出てこないだろう。

今後、県内における河川氾濫や震災対応などが懸念される中、防災・減災、国土強靭化を確実に推進するためには、皆さまの果たすべき役割はますます大きくなる。引き続き本県の発展にご尽力いただきたい。

建設業が多くの若者に選ばれ、持続可能で魅力ある産業となるよう、働き方改革や生産性向上などを支援していきたい。

社会資本整備を通して、さらなる県政発展に貢献します

茨城県建設業協会土浦支部 石岡分会

分会長　松永　英信（㈱松永工務店）
副分会長　岡崎　二朗（㈱岡崎土建）　副分会長　大和田久進（東亜興業㈱）
理事　長谷川敏久（㈱長谷川工務店）　理事　白田　二朗（白田組土木㈱）　理事　路川　雅博（㈲路川工務店）
監事　大場　俊之（㈱大場工務店）　監事　篠崎　正和（篠崎建設㈱）　顧問　飯村　一夫（㈲イイムラ）

㈱アレスコ	㈱兼祐	㈱鈴木工務店	原田建設㈱
㈲イイムラ	興民建設㈱	㈲竹林組	㈱日高建材
市村土建㈱	小桜建設㈱	千代田建設㈱	㈱広伝
㈱大場工務店	㈱紺野工務店	㈲塚田埋設工事	福井建設㈱
㈱岡崎土建	堺建設㈱	東亜興業㈱	双葉建装㈱
㈱小貫工業	㈱三企工業	中沢機工㈱	平成建設㈱
㈱木村工務店	篠崎建設㈱	白田組土木㈱	㈱松永工務店
㈱キンダイ	㈲シンケン	白田建設㈲	㈲路川工務店
九島産業㈱	㈱進貢	㈱長谷川工務店	㈱菱伸工営

私たちは地域の安全・安心を守る「地域の守り手」としての役割を担います

一般社団法人
茨城県建設業協会
水戸市大町3丁目1番22号　TEL029-221-5126㈹
http://www.ibaken.or.jp

会長　石津　健光
副会長　細谷　武史　副会長　小林　伸行
副会長　秋山　光伯　副会長　新井　孝
副会長　大藤　博文　副会長　田口　恵一郎
他　会員一同

茨城県塗装工業組合

理事長　増田　勝人
副理事長　齊藤　佳昭　副理事長　貝賀　睦　副理事長　岡野　勉
副理事長　塚本　哲生　副理事長　萩原　敏明
他　会員一同

〒310-0851 茨城県水戸市千波町1853-1　TEL.029-244-3581　FAX.029-243-6681